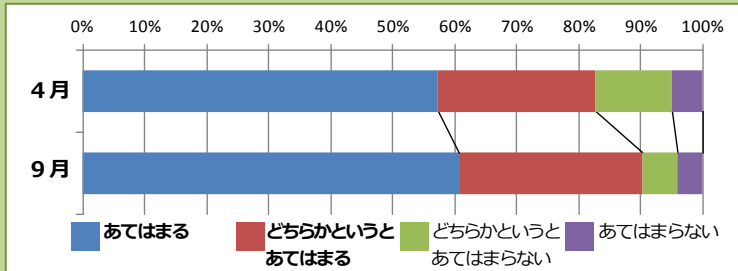
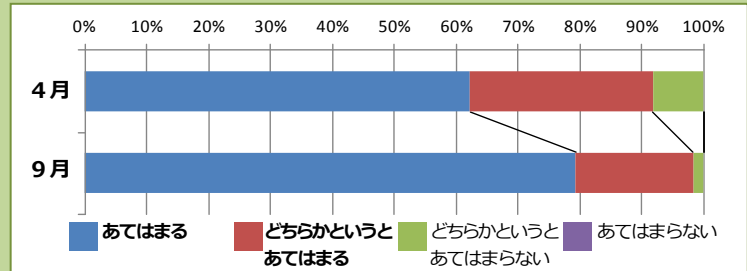


●道徳が好き（全校）



- 道徳の時間は、心が温まるから。(6年)
- 道徳の時間は、心が育てられるから。(6年)
- いろいろな人の気持ちを考えることができるから。(5年)
- いろいろなおはなしが聞けるから。(1年)

●道徳は将来役に立つ（高学年）



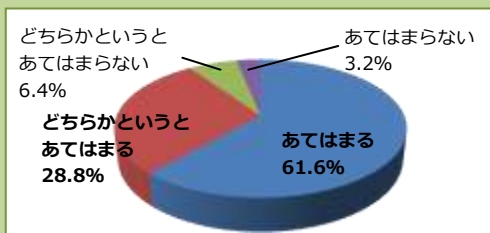
- 人の気持ちを考えたり、あいさつや言葉遣いなどの勉強をしたりすることは将来役に立つと思うから。(5年)
- 道徳の時間では、「こうしよう」「これから気を付けよう」と考えるから。(4年)

◎「道徳が好き」と答えた児童が増えた。理由として、「思ったことを自由に話し合えるから」と答える児童が多く、対話の充実を図ってきた結果と考えられる。

◎「道徳は将来役に立つ」と答えた児童が大幅に増えた。「人の気持ちを考えられるから」という理由の他、様々な道徳的価値と将来とをつなげている児童も多数見られ、自己を見つめられる児童が増えていると考えられる。

●自分からあいさつをする

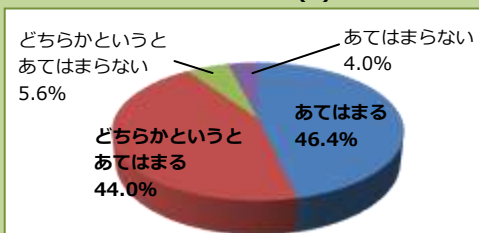
2-(1)礼儀



- あいさつをちゃんとするとすっきりするから。(2年)

●相手の気持ちを考えている

2-(2)思いやり・親切



- 相手の気持ちを考えないと傷つけるかもしれないから。(6年)

●命は、とても大切だと思う

3-(1)生命尊重



- 自分の命、友達の命は一つしかなく、傷つけてはいけなと思うから。(2年)

◎「自分からあいさつをする」の項目で肯定的な回答は90%であった。相手の気持ちを考えたあいさつ指導を継続してきたことにより、児童の意識が高まったと考えられる。

◎「相手の気持ちを考えている」の項目で肯定的な回答は90%を超えるものの強い肯定は半数にとどまっている。児童の様子を見ても、相手のことを考えていない言動が見られる。そのような場面をとらえて、相手の立場や気持ちを共に考え、思いやりの心を育てていく必要がある。

◎「命は、とても大切だと思う」の項目で全ての児童が肯定的な回答であった。しかし、自分の命のことだけを考えている児童が多いことから、身の回りの様々な命に目を向けさせていく必要がある。

成果と課題

【成果】

- 自分を見つめることのできる児童が増え、道徳的心情の高まりが見られた。
- 他とのかかわりの中で、相手の立場を自分に重ね合わせて考える児童が増えてきつつある。
- 家庭・地域が様々な形で学校の取組にかかわることにより、道徳に対する関心・理解が児童とともに高まってきている。

【課題】

- ▲児童が本音で対話し、価値について考えるまでには至っていない。自分の思いを十分に伝え合い、考え、深め合う授業の構築を目指していかなければならない。
- ▲家庭・地域との絆を更に強め、道徳的実践が習慣化・日常化するようにしていかなければならない。

【これからの方向性】

- ・本音で語れる場づくりが十分ではなかったことを踏まえ、「考え議論する道徳」を目指し、対話につながる発問や板書、道徳ノート等の工夫に取り組んでいく。
- ・豊かに家庭・地域とかかわり続けられるよう、実践の発信方法を工夫し、家庭・地域の声を生かす機会をつくっていく。